

## ○全国車掌協議会開催



11月16日、17日の2日間、第24回全国車掌分科連絡会が開催され、九州からは香田賢晋（博多車掌区）、田原雅史（門司車掌区）、西原孝徳（鹿児島乗務センター）の3名が参加しました。この会は、JR各社で車掌をしている国労組合員が集まり、会社や各職場の問題を出し合い、解決策を議論し、今後の職場運動にどう繋げていくのかを全国規模で考える非常に有意義な集まりで、2020年度（コロナ禍）を除き、毎年行われてきました。しかし、諸事情により今回が最終回となり、それを惜しむ声もたくさん上がりました。全体会議は1日目に国労大阪会館で行われ、2日目は、17年前のJR福知山線での事故現場（祈りの杜）を訪問し、慰霊碑や崩壊したマンション跡、さらには、地下にある事故当時の状況を振り返る展示資料を拝見し、「安全」の重要性について学びました。連絡会そのものは終会しましたが、ここでのつながりは、今後も大切にし、定期的に交流が出来ればと思います。皆さんお疲れ様でした。また会う日まで。

### 青年のひとりごと

イソップ寓話の一つである「卑怯なコウモリ」は誰もがご存知かと思います。内容を簡単にまとめると、「昔々、いつもケンカをしている鳥と獣に対し、コウモリは『私は獣の仲間です』と言ったり、『私は鳥の仲間です』と言ったりして、そのとき「有利」な側に寝返るかたちで、立場をころころ変えていた。しかし、やがて、鳥と獣のケンカが終わり、両者が和解すると、これまで自分勝手に立場変えていたコウモリは、仲間外れにされ、暗い洞窟に追いやられた」というもの。お気付きの通り、このコウモリのような行動パターンを持つ人間は日本社会において少なくありません。当然、これは、わが国の教育の在り方が大きく関係しています。くどいようですが、私たちは、子供のころから、「和を以て貴しと為す」の精神を叩き込まれ、「みんな」が称賛しないような「自己主張」や「行動」は差し控えるよう教えられます。その結果、私たちにとって最も重要なのは、「自分は何をして、どう生きるか」ではなく、「周囲の人間からどう思われるか」という卑近な問題にとどまります。よって、自分が所属するコミュニティで「安全」に生きていくためには、「みんな」との関係をこじらせない必要があります。そのために、権力の強い「ボス」的存在に擦り寄り、安定した立場を確保しておく姿勢は極めて合理的で、頭ごなしに批判すべきではないという意見にも一理あります。しかし、ここには決定的な問題があります。それは、いくら「ボス」に尽くしても、自分の中にある「不安」が消えることはない、ということです。「いつか仲間外れにされるのではないか」という恐怖による「心の隙間」を抱えていると、「ズルい人」はそこに付け込み、利用してきます。そもそも、「周囲への気配り」にはキリがなく、これを見落とすと、本当にやりたい事を通して自分と向き合うこと、つまり、「自分との対話」によって「主体性」を創り上げることは永遠に「後回し」。これでは、「自分自身」から嫌われて当然です。この「自己肯定感」の低さこそが、終わりなき「不安」の正体と言えます。

### ○当面する行動

- 11月29日（火）18：30～/原水禁実行委員会 福教組中部地区事務所
- 12月3日（土）13：00～/県交運定期総会&議員懇親会 TKP天神
- 12月5日（月）12：00～/久留米-熊本分会定期大会 久留米「つくね横丁」